

寿楽委員の質問・意見に対する回答

朽山 修

よりよい(社会的合理性のある)社会的意思決定のために、科学技術による客観的情報を最大限に利用することは、手続き正当性の確保のために必須のことである。その意味で、その技術オプションが、放射性廃棄物から人と環境を防護するという目的を、どの程度実現できる見通しがあるかという情報は、社会的合理性の議論の最も重要な基礎になる。その意味で、このような科学技術的情報を用いなくて、放射性廃棄物からどのくらいのリスクがもたらされる可能性があるかの相場観なしに、社会的合理性の是非が議論されているのではないかという科学技術者からの“政治的メッセージ”になっていると考える。

その一方、このような既に決められたオプションの正当性を云々する議論は、指摘のように、数あるオプションのうち、なぜ、永久管理や暫定貯蔵ではなくて「地層処分」か、なぜ将来の技術に期待するのではなくて「現世代が」、「現在考えられている手法に則って」「今すぐ着手する」のかという、選択の正当性の議論はこの説明では行われていない。これらの議論は、この分野のこれまでの研究開発の過程で、議論されてきたものではあるが、社会を巻き込んで行われてきたわけではなく、ごく限られた集団の中で行われてきたにすぎない。

社会の懸念は、これらの点で納得いく説明がなされていないのではないかと、あるいは納得できないというものであると、これらについて議論しておくべきという、寿楽委員の意見に同感である。

ただし社会的合理性の確保は、オプションの決定、進め方(例えばサイト選定)、実施等の責任体制、マネジメントシステム、等々様々な場面で要求され、その都度項目に応じてステークホルダーを交えた議論の中でなされるものであり、この場で全てが決められるわけではない。また抽象的に社会的合理性のある手続きなど、答えの得られないものを求める議論も建設的とはなりえない。ここでは、オプションとしての地層処分の選択の社会的合理性について議論する(例えば学術会議で提案されている暫定保管との間での選択について議論する、あるいはこれまでなされてきた意思決定を振り返る)ことに絞って行うべきであると考え。